

3月28日 ゲスト卓話



医療法人 福寿会 埼玉回生病院
院長 岳 真一郎 様

“漢方内科”が得意とする病気は主に“慢性疾患”です！

体のバランスを整え、体質改善し治癒力を高めましょう！

主な対象疾患

アレルギー疾患、自己免疫疾患、生活習慣病、婦人科疾患など
※その他の疾患についてはご相談下さい。

漢方薬は自然の恵み

漢方薬はこんな「薬」です

「自然界にある植物や鉱物などのうち、薬効を持つ」部分を一定の法則のもと、原則として複数組み合わせられて作られた薬です。

何千年という長い年月をかけておこなわれた治療の経験によって、どの生薬を組み合わせるとどんな効果が得られるか、また有害な事象がないかなどが確かめられ、漢方処方として体系化されました。現代における漢方薬も「自然の恵みを利用して出来ている薬」と言う基本的な部分は変わりません。その一方で、最新技術を駆使した「製剤」として、生薬の持つ薬効を引き出し、かつ服用・保存しやすい状態に加工されたものになっています。

漢方薬にも副作用があります

漢方薬は生薬を原料にしているため、「副作用がなくて安心」と思っている方も多いでしょう。しかし漢方薬も薬なので、副作用はあります。場合によってはアレルギー反応を起こすこともあります。まれに重大な副作用やアレルギー反応が出ることもあるので、おかしいなと思ったときは、すぐに医療機関に相談するようにしましょう。

「生薬」とは・・・



植物の葉・花・つぼみ・茎・枝・根、また菌類、鉱物や昆虫など、長い経験の中で効きめがあるとされた物質を、利用しやすく、保存や運搬にも便利な形に加工したものを「生薬」といいます。それを混合して使用する治療薬が漢方薬です。漢方薬の特徴は生薬の複合効果にあるのです。

植物といっても、花や果実、種、根、茎、樹皮、葉など、草木によって用いる部分が異なります。例えば、桃の種を用いた「桃仁(とうにん)」や、葛の根の部分を用いた「葛根(かっこん)」、大きくきれいな花を咲かせる芍薬の根の部分を用いた「芍薬(しゃくやく)」などがあります。他にも、「茯苓(ぶくりょう) : サルノコシカケ科のマツホド」のように、キノコ類も生薬になっています。

植物性生薬以外では、鉱物では、硫酸カルシウムである「石膏(せつこう)」などがあり、動物に由来するものとしては「牡蛎(ぼれい)」というカキの貝がらなどが用いられています。



漢方薬はこれだけ多様・多彩

- 1 さまざまな生薬を複合的に組み合わせた薬です
- 2 一剤で色々な症状を解消したり、和らげたりします
- 3 病態やその人の体質に合わせて、さまざまな漢方薬が用いられます
- 4 飲んですぐ効くタイプと、飲み続けることで効いていくタイプの漢方薬があります
- 5 同じ病気でも、発症してからの経過日数、症状によって用いられる漢方薬が異なります

女性に優しい漢方薬



女性特有の病気から様々な不定愁訴に効果を発揮します。西洋医学では検査を行い病名を重視しますが、漢方医学ではカラダを局所的にみず、心とカラダをひとつのものとしてとらえ総合的に判断します。つまり、症状を重視し、その人の体質などによって処方異なります。

よって、冷えや疲れなどといった病名がつかない“未病”にも対応するのが漢方の強みです。

そして、1剤に複数の成分が含まれているため、複数の症状にも効果が期待できます。

健康保険が使えます



漢方薬にはたくさんの種類がありますが、主要な148処方には健康保険が適用されます。これらは、厚生労働省から認可を受けた医療用医薬品となります。その為、病院などでこれらの漢方薬を処方してもらうときは、原則1~3割の患者負担で済みます。

「漢方薬は高い」というイメージがありますが、決してそうとは限りません。ケースによっては同じ病気でも西洋薬より薬代がリーズナブルなこともあります。



岳 眞一郎

(日本東洋医学会漢方専門医)

1895年（明治28年）

西洋医学を唯一の公認の医療体系とする

特長

- ・ 患者1人1人の体質及び愁訴を重視
- ・ 全身性の重視
現代医学は臓器別の診断・治療になっている
- ・ こと細かな問診
- ・ 腹診
- ・ 心と体の相関の重視（心身一如）
病気は心と体の相互の歪みによって起こるもの

漢方薬使用実態調査

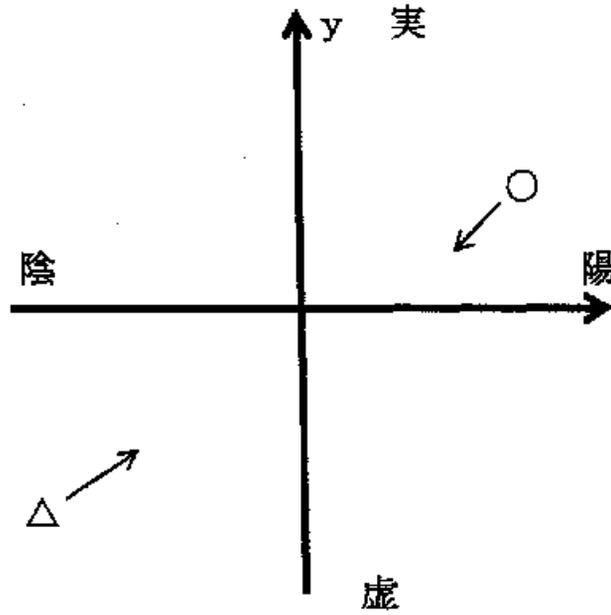
- 漢方薬を現在使用している医師は72.1%
- 漢方薬を使用する動機として、西洋薬による治療だけでは限界があることを理由にあげた人は全体の64.7%
- 漢方薬を用いる疾患・症候（上位）

- ① 不定愁訴・更年期障害・自律神経失調症
- ② 便秘
- ③ 急性上気道炎（感冒）
- ④ こむらがえり
- ⑤ アレルギー性鼻炎
- ⑥ 疲労・倦怠感
- ⑦ 咳・痰
- ⑧ 食欲不振・栄養状態の改善
- ⑨ 慢性肝炎
- ⑩ 排尿障害（頻尿・排尿困難）

漢方の副作用

- ・ 人参による血圧上昇
- ・ 甘草による低カリウム血症
- ・ 漢方生薬一般 アレルギー性皮膚炎・湿疹
- ・ 麻黄・附子 のぼせ・動悸
- ・ 紫胡 肝障害
- ・ 薬剤性肺炎（間質性肺炎）
- ・ 妊婦への安全性は確立していない

病態の空間認識 (生体の歪み)



最終診断 = 証 (現時点の診断であり治療の指示でもある)

【五臓 (実質臓器)】

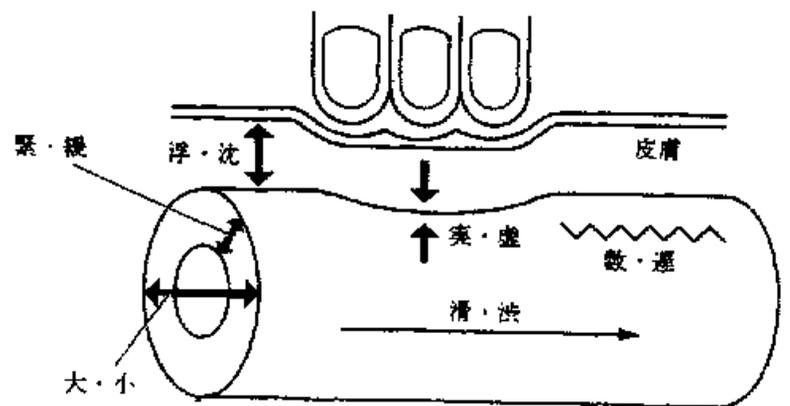
- 肝 精神活動
- 心 意識水準
- 脾 消化吸収
- 肺 呼吸
- 腎 成長、生殖

【六腑 (管腔臓器)】

- 胆
- 小腸
- 胃
- 大腸
- 膀胱
- 三焦 (腸管、消化管)

脈 診

- (1) 浮と沈
- (2) 虚と実
- (3) 数と遅
- (4) 大と小
- (5) 緊と緩
- (6) 滑と澁



脈診で判定する脈の性状の模式図

[陰陽の診断基準]

陽

- ・暑がり、薄着を好む、首から上に汗をかく
- ・冷水を好んで多飲する
- ・顔面が紅潮・眼球の充血
- ・高体温(36.7℃以上)傾向
- ・舌尖が赤い
- ・数脈
- ・脈が浮(軽く按じてよく触知できる)
- ・胸脇苦満
- ・下痢に伴う肛門の灼熱感
- ・排尿に伴う尿道の灼熱感・高張尿
- ・便臭がつよい

陰

- ・寒がり、厚着を好む
- ・電気毛布など温熱刺激を好む
- ・顔面が蒼白
- ・低体温(36.2℃以下)傾向
- ・背部・腰部・首の周囲を寒がる
- ・四肢末梢が冷える(自覚的または他覚的)
- ・脈が沈(深く按じないと脈を触れない)
- ・脈が澁(脈速が遅い)で遅脈
- ・聞きとりにくいという言葉をブツブツという
- ・不消化の下痢便で、肛門の灼熱感を伴わない
- ・兔糞・便臭の少ない便
- ・低張尿が頻回に多量に出る

[虚実の診断基準]

実

- ・眼光・音声に力がある
- ・脈が充実
- ・腹力が充実
- ・皮膚の色つやが良い

虚

- ・眼光・音声に力がない
- ・気力がない・倦怠感
- ・脈が無力
- ・腹力が軟弱
- ・皮膚の色つやが悪い

【身体を冷やす食べ物例】

- トマト、 キュウリ、 ナス、
ホウレン草、 レタス、 セロリ、
冬瓜、 タケノコ、 ニガウリ など。
- ナシ、 スイカ、 メロン、 柿、
パイナップル、 バナナ など。
- 豆腐、 海草 など。
- カキ、 カニ、 タコ、 刺身 など。
- 寿司、 白砂糖、 小麦粉、
コーヒー、 牛乳 などがある。

【身体を温める食べ物例】

- 生姜、 ニンニク、 唐辛子、
山椒、 ネギ、 ニラ など。
- ソラマメ、 ニンジン、 カボチャ、
トウモロコシ、 インゲン など。
- もち米、 酒類 などがある。

余宗族素多。向餘二百。建安紀年以來、猶未十稔、其死亡者、三分有二。傷寒十居其七。感往昔之淪喪、傷橫夭之莫救、乃勤求古訓、博采衆方、撰用素問、九卷、八十一難、陰陽大論、胎臚藥錄、并平脉辨證、為傷寒雜病論合十六卷。雖未能盡愈諸病、庶可以見病知源。若能尋余所集、思過半矣。

上醫醫未病之病

中醫醫欲病之病

下醫醫已病之病